



中国人海外旅行のトレンド ～ますます旺盛な旅行需要にどう対応するか～

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 飯田 郁子 (新潟県派遣)、横地 義照 (鳥取県派遣)

今も「爆買い」＝「中国人観光客」という連想をする方は少なくないかもしれません。その一方、多くのメディアでは、「『爆買い』は終わった。今や訪日中国人観光客のトレンドは『モノ消費』から『コト消費』へ移行した。」といった報道や記事を度々見かけるようになりました。

中国人の「流行」の変化はとても速く、SNSを駆使して個人の嗜好や体験情報が瞬く間に拡散し、知人・友人を通じて広く一般にも共有され、また新たな「流行」が生まれます。中国人の訪日観光客数は日本政府観光局(JNTO)の発表でも毎月過去最高を更新し、依然として訪日旅行需要が根強いことには変わりはありません。そして、中国人の旅行スタイルは、これまでの団体旅行中心から、2016年上半期には個人旅行が団体旅行を上回りました。これに伴い、旅行者のニーズはますます多様化していくことでしょう。

さて、中国人にとって、今一番人気のある海外旅行先はどこでしょうか。日本のほかにはどの国へ旅行に行っているのでしょうか。2017年春節(旧正月)期間における海外旅行商品オンライン購入データに基づく、中国での海外旅行のトレンドを紹介します。

海外旅行ブームの背景は 可処分所得の増加とビザの緩和

中国の大型連休は年に2回あり、春節と国慶節(建国記念日)の期間です。会社員が一週間程度休みを取ることができるこの期間は、国内の観光地も中国人観光客で大混雑します。

中国では近年の経済成長を受けて国民の所得水準が上昇、可処分所得に余裕のある中間層も着実に増え、国内、国外を問わず旅行需要が著しく伸びています。そこで観光客で大混雑する中国内の観光地を避けて、「中国人が

いない所へ行きたい」と海外旅行を選択する中国人も多いそうです。



中国の代表的な観光地「黄山(安徽省)」登山の様子

また、各国も中国人観光客を取り込もうと、次々とビザ発給要件を緩和しています。これまで中国人旅行者にとって、外国への渡航は多くの国で要件が厳しく、海外旅行は敷居の高いものでした。しかし、海外旅行が一般化した現在、中国政府は多くの国と協力し、ビザ発給要件の緩和を進めています。最近では、2017年1月5日からセルビアとビザ相互免除協定を、アルメニアとアライバルビザ(現地で取得が可能なビザ)の免除協定をそれぞれ結びました。これにより、中国人向け入国ビザ・アライバルビザ免除を実施している国と地域は60となりました。中国人のビザ発給要件の緩和を行う国は

年々増加しており、このことも、中国人の海外旅行先の動向に大きく影響を及ぼしています。

一例としてはオーストラリアが挙げられます。「途牛旅遊網」（中国の大手旅行サイト）の調査で昨年のトップ10外から、6位へ急激に順位を上げたオーストラリアは、2016年12月12日からビザ発給要件を緩和し、有効期間10年のマルチビザの発給を開始しました。これにより春節前に同ビザを申請する中国人が急増、今年の春節におけるオーストラリアへの中国人渡航者が急激に増加しました。

春節期間に約600万人が海外へ 中国人に人気の海外旅行先は？

中国旅遊研究院とCtrip（携程網・中国最大の旅行手配サイト）が発表した「2017年春節旅行トレンド報告とランキング」によると、人気の訪問先、都市は表のとおりです。

人気の海外旅行先		人気の都市・エリア	
1	タイ	1	香港
2	日本	2	バンコク
3	香港	3	シンガポール
4	韓国	4	プーケット
5	シンガポール	5	ソウル
6	インドネシア	6	バリ島
7	アメリカ	7	東京
8	ベトナム	8	大阪
9	台湾	9	台北
10	マレーシア	10	濟州島
11	カンボジア		
12	オーストラリア		
13	フィリピン		
14	エジプト		
15	モルディブ		

2017年春節旅行トレンド報告とランキング（中国旅遊研究院・Ctrip）より

また、旅行の出発都市としては、上海、北京、広州、深圳に続き、杭州、南京、成都、厦門、武漢、天津という結果でした。地方都市の住民へ、海外旅行を含めた旅行需要が着実に広がっていることが伺えます。

そして人民日報社のニュースサイト「人民網」によれば、この春節期間中に海外旅行に出かけた人数は前年同期比約7%増、延べ約615万人に達しました。このうち、

団体旅行客は前年同期比2.5%増の延べ37万4,000人だったことから、個人旅行者が占める割合が増加していることが分かります。

人気のエリアとしては、ビーチリゾートへ向かった中国人が多いようです。「途牛旅遊網」のモニタリングデータによると、この春節に海外のビーチリゾートへの旅行を予約したユーザーは、海外へ旅行に出かけたユーザー全体の60%以上を占めたとのこと。冬の寒さを逃れ、きれいな空気を求めて海外のビーチへ向かったのでしょうか。その一方で、韓国、香港、台湾は、昨年比べてやや人気は低下したようです。

また人民日報海外版では、スペインの旅行情報機関「Advance Guide」が発表したデータから、春節期間中の中国人アウトバウンド市場の傾向を分析しています。最も大きな変化がみられたのは、家族旅行者の増加。2016年12月30日時点で、予約件数は前年同期比で18%増とのことでした。そのほかの傾向としては、2016年に欧州を訪れた中国人観光客の数は7.4%の減少でしたが、欧州旅行人気は回復傾向にあるとのこと。中国人観光客減少の主な原因はテロ事件と考えられ、テロに対する不安は依然として存在するものの、2017年春節の欧州旅行の予約件数は56%増で、特に北欧・中欧・東欧旅行の人気が高まっていると分析しています。

一方、トルコを訪れる中国人観光客は激しく落ち込み、減少幅は14%に達しました。これは最近発生したテロ事件の影響とみられ、トルコ観光業に引き続き深刻な打撃をもたらしています。

北京で日本の各地域をPR

このように、実は中国人にとって日本は、「数ある海外旅行先の選択肢のひとつ」でしかありません。日本が引き続き渡航先の上位を維持するためには多くの地域を紹介し、それらの認知度を高めていくとともに、個人旅行者のニーズに応じた情報提供をする必要があります。

そこで北京事務所では、北京に店舗を有する日系旅行社と協力し、当該店舗において「東北地方」や「昇龍道」といった地域にフォーカスした観光PRを行っており、各地域の伝統工芸品や特産品を展示したり、パンフレットやノベルティを配布したりしています。

また、PR期間中は店舗内で自治体職員による観光ミニセミナーの開催も可能です。



日系旅行社店舗で福島県をPRする様子

2017 広州国際旅遊展覧会へ出展

また北京事務所では、定期的に中国内で開催される大規模な旅行展示会に出展し、各地域のPRに努めています。

2017年2月23日から25日までの3日間、広東省広州市内で開催された2017広州国際旅遊展覧会(GITF2017)では、神奈川県、岐阜県、福井県、徳島県、宮崎県、横浜市と連携してブースを出展し、観光PR映像の放映や、観光パンフレットの配布などを行いました。

本展示会には51の国と地域から980団体が出展し、期間中、3万人を超える人々が訪れました。旅行代理店が集中的に配置されたエリアでは、その場で旅行商品を購入できることから、それらを買いたい来場者が殺到し、中国における旅行ブームの熱気を垣間見ることができました。

クレアブースでも1,000人分を想定して準備した各地域の資料が全て無くなるなど盛況でした。日本地図や東京、大阪、京都、北海道、そして沖縄などの地域のパンフレットを求める来場者が多く、ゴールデンルート(東京-大阪間)と、北海道・沖縄の根強い人気を実感しました。

クレアブースに参加出展した岐阜県上海事務所の島田所長は、「団体旅行はどうしてもゴールデンルートが中心となるため、個人旅行を中心にアプローチしている。中国人の旅行先は多様化しているが、市場はやはり大きい。幸い当県はアニメ映画『君の名は。』の聖地巡礼がブームとなり、台湾、中国などからの個人旅行者が増え

ている。旅行会社も商品を差別化するうえで、地方の商品を求めているのだと思う。温泉、古い町並み、自然体験など、日数をかけて満喫してもらいたい商品提案がないといけない。」と、展示会を振り返りました。



クレア北京事務所ブースの様子



中国国内旅行社が旅行商品を売り込む様子

中国人観光客の渡航先が多様化する中で、引き続き日本へ渡航してもらうためにはどうすべきか。ほとんどの中国人が利用している微信(WeChat)などのSNSを活用しながら、日本の地方の魅力を数多く、継続的に情報発信していく努力が必要だと考えます。

次に北京事務所が出展する展示会は、2017年6月16日から18日にかけて開催される北京国際旅遊博覧会(BITE2017)です。本展示会を含め、中国でのイベントで観光パンフレットの配架を希望される自治体は、北京事務所までお問い合わせください。